

《内分泌代謝内科》

—スタッフ—

役 職	スタッフ名
診療局長兼部長 兼栄養管理センター長	大野 昭
副医長	倉敷 有紀子
非常勤医員	清水 勇雄

—概要—

内科が裾野広い守備範囲と先鋭的な専門性の両立を目指すことは地域医療の必要性も合致します。一方で厳しい医療環境のなか内科診療を持続可能とする基盤を固める必要があります。当年度は院内の各診療科、各領域の内科医、専門職種の協力をもとに専門内科診療チームを組織し「内分泌代謝内科」と呼称しました。大野昭 倉敷有紀子 清水勇雄の常勤医に加えて森下寿々枝先生 矢頃綾先生 梶本先生を招聘、大阪大学総合地域医療医療学（山下静也教授）から小澤純二助教に兼任いただき、職種横断チームによる糖尿病患者エンパワメント・近隣実地医家と共同勉強会・国内の専門家とすみやかに症例検討を求めることが可能な専門性を特色としています。当科の活動は専門職種の業務・研究とも不可分です。

合併症の多彩な糖尿病の管理においては、周産期センターと協業による糖尿病合併妊娠管理・入院に加えて外来での持続血糖モニター（CGM）の開始・専門看護師を含むフットケア外来を実施しました。内分泌疾患（下垂体副腎・甲状腺・希少腫瘍）では個別性に留意して診療にあたっています。

大阪府保健医療計画にもとづく泉州圏域糖尿病医療連携検討会を主宰し2次医療圏での慢性疾患管理手法の開発を、個々の診療をとおして地域に根ざす糖尿病・内分泌治療の実績確立を大阪大学総合地域医療医療学講座とともにを行っています。

—実績—

糖尿病教育入院 94名：1型 13人 2型 81人

汎下垂体機能低下症 2人

サブクリニカルクッシング病 1人

副腎疾患 2人

《膠原病内科》

—スタッフ—

役 職	スタッフ名
膠原病内科部長 兼リウマチセンター長	入交 重雄

—概要—

関節リウマチを中心とした膠原病疾患に対して診療を行っている。病診連携などを通じて膠原病疾患患者数は着実に増加しており、週2回の専門外来および病棟にて診療を行っている。関節リウマチに関しては、整形外科との協力体制のもと総合的診療が可能である。関節疾患の診断・治療効果判定のために、関節エコー検査を新たに当院に導入した。関節リウマチにおける臨床症状の軽減、関節破壊の進展阻止、身体機能の改善の極めて高い有効性を示す生物学的製剤を積極的に導入している。

当科で診療を行っている関節リウマチ以外の膠原病としては、全身性エリテマトーデス、全身性強皮症、シェーグレン症候群、多発性筋炎・皮膚筋炎、ベーチェット病、リウマチ性多発筋痛症、混合性結合組織病、血管炎症候群、脊椎関節症、RS3PE、成人スティル病、強直性脊椎炎、悪性関節リウマチなどがある。

当院は、日本リウマチ学会教育施設、日本整形外科学会認定制度研修施設、日本リハビリテーション医学会研修施設である。

また、当院は米国退役軍人ヘルスチェック指定病院となり、国際診療科において入交医師が定期的に米国退役軍人の診察にあたっている。